

盛岡駅前商店街 (盛岡駅前商店街振興組合)

岩手県盛岡市

インバウンド

地域課題対応

若手・女性

生産性向上

ポイント

通過型商店街から滞留型商店街への転換を目標に、 地産地消認定制度による店舗の意識改革に成功。

基本データ

所在地	岩手県盛岡市盛岡駅前通
人口	約 30 万人 (盛岡市)
電話/FAX	019-652-2596 / 019-652-2575
URL	http://www.kaiun-street.com/
会員数	50 名
店舗数	59 店舗 (小売業 11 店、飲食業 20 店、サービス業 8 店、金融業 2 店、不動産業 9 店、医療サービス業 1 店、その他 8 店)
商店街の類型	広域型商店街
主な客層	サラリーマン、国内観光客 / 60 歳代、50 歳代

商店街概要

明治 23 年の東北本線盛岡駅開業が盛岡駅前商店街の始まりであり、昭和 49 年に盛岡駅前商店街振興組合として法人化。昭和 57 年の東北新幹線開通を前に、無電柱化と融雪機能を備えたカラー舗道工事を実施した。

盛岡駅は、東北新幹線だけでなく、東北本線、IGR いわて銀河鉄道、田沢湖線、花輪線、山田線など多くの鉄道のターミナルであるだけでなく、市内循環バス・中長距離バスのターミナルでもあり、通勤・通学客や旅行者が多く見られる。

商店街構成業種は、近年、小売業が減少し、飲食業や不動産業が増加する傾向にある。その中でも特に飲食店の占める比率が高くなっている。

取組の背景

通過型から滞留型への転換を目指して

盛岡駅前商店街の歩行者通行量調査によると、平日の朝 8 時から 9 時、夕方 17 時から 18 時の通行量が多くなっており、盛岡駅を利用する通勤・通学客が多いことがわかる。

休日は午前 11 時頃から通行量が増えていくが、歩くスピードが速いなど、商店街での買い物などを目的にした通行者ではないと思われる場合が多く、通過型商店街となっていた。

一方、県外からの旅行者の状況に目を向けると、ここ 20 年、駅前に多くのホテルができたため、駅前だけで約 1,600 の客室がある。平日の平均客室稼働率は約 90% で、1 室当たりのベッド数を考慮すると、約 1,600 人の旅行者が盛岡駅前を過ごしていると考えられる。

商店街では、これらの潜在的な顧客を確実に商店街の顧客として取り込んでいけるよう、通過型商店街から滞留型商店街への転換を目指して、商店街の魅力発信していくことが必要であると考えた。

取組の内容

地産地消認定などで商店街の付加価値向上

通過型商店街から滞留型商店街への転換を果たすためには、通行者の目的地そのものが商店街となるような、魅力のあるまちの創造を目指すことが必要

であると考え、100 縁商店街やスマイルコンテストなどの従来からの取組に加え、県外から新たな来街者呼び込み、地域の住民にも地産地消を実感してもらうための取組として、商店街独自の地産地消認定制度を実施することを決定した。

本事業の実施に当たり、地産地消の定義が不明確だと商店街の独りよがりともとらえられかねないこと、また、単なる地方の名物料理の提供という誤解を与える恐れもあったことから、認定基準については明確なものになるよう慎重に精査する必要があった。

そこで、まず、商店街の飲食店が実際にどの程度岩手県産の材料を使用しているか、また、飲み物を置いているか、予備調査を行ったうえで、「盛岡駅前地産地消認定委員会」を立ち上げた。構成委員は、盛岡市、盛岡商工会議所、盛岡まちづくり株式会社、岩手県中小企業団体中央会などの各関係団体と、盛岡駅前商店街の理事会である。

本認定委員会の協議によって策定された地産地消認定店の基準は、①岩手県産の材料を 10 種類以上使っていること、②岩手県産の材料を使ったメニューが 10 種類以上あること、③岩手県産の飲み物が 10 種類以上あること、の 3 つだ。

これら全てをクリアした店舗には認定証を交付し、店舗の内外に認定証を飾ることで商店街としての PR を行っている。

平成 28 年度の認定希望店は 12 店舗で、このうち 8 店舗が認定に至った。



地産地消認定制度の認定証



認定証を店舗の外に飾りPR！！

また、このほか、盛岡駅前を象徴する開運橋の縁起の良さを商店街利用時に感じ取ってもらえるよう、500円以上の会計時には運試しとして「開運カード」を発行した。大吉が出たら100円のお買い物券として利用することができ、商店街内の消費促進につなげている。

また、買い物環境を向上させるため、地域の団体などと協力しながら清掃活動や植え込みの剪定なども継続的に実施している。

取組の成果

新メニュー開発など店舗の意識改革にも成功

平成28年度地産地消認定制度で認定した8店舗の月間売上高を認定前と認定後とで比較すると、8店舗ともに3%～10%の増加となっており、付加価値を向上させたことによる効果が現れている。

また、認定店舗では地産地消メニューをさらに増やす動きが出ているなど、店舗の意識改革にもつながっている。地産地消認定は今後も毎年継続していく予定だ。

開運カードについては、用意した1万枚がすぐになくなり、来街者からの評判も上々だった。

また、商店街オリジナルキャラクターである開運かなえちゃん・開運たまえちゃんを広告塔として活用し、商店街の取組をPRすることで、商店街に滞留する人の増加につながっている。



地元の素材を使った地産地消メニュー



開運たまえちゃん、開運かなえちゃん

実施体制

商店街では、若手で組織する盛岡駅前商業研究会が中心となって様々な活動を支援しているほか、地域内の専門学校やNPO組織、盛岡市、盛岡商工会議所、盛岡まちづくり株式会社、岩手県中小企業団体中央会など、行政を含む様々な組織と連携しながら各事業を実施している。

また、平成27年度に岩手大学まちづくりサークルと協力して実施した商店街マップ作成をきっかけに新たな連携も生まれており、地域の学生も商店街事業に積極的に参画している。

このほか、隣接する商店街と共同で飲み歩きイベントを開催するなど、地域の賑わい創出にも取り組んでいる。



商店街区内の美化清掃活動

キーパーソンからのコメント



盛岡駅前商店街振興組合 理事長 石田 和徳

商店街からの魅力発信！

商店街の魅力で「ひと」を呼ぶことに重点を置いた様々な事業に取り組んでおり、地産地消認定制度、ご当地キャラクターの作成、東日本大震災からの復興イベントなどの事業を実施しています。現在はインバウンド対策として指さしシートの作成や従業員教育のため「カタコト」英会話塾にも取り組んでいます。

引き続き近隣の商店街やJR盛岡駅などと一緒に、県内外を問わずお客様から「買い物に、飲食に盛岡駅前商店街に行けば大体の願いが叶う」と思っただけのような魅力を発信していきたいです。

きれいな商店街づくり

私が平成21年に理事長に就任した時の商店街は、小売店などが減少し、商店街としての活動が縮小していました。

商店街を活性化するため最初は岩手県の玄関口をきれいにとしようと、清掃活動を始めました。次第にJR盛岡駅などと連携し今では毎週月曜日にテーマを決めて、ゴミ拾い、草取り、花植えなどを行っています。また、春と秋には盛岡市内から総勢150人程度の方々が参加する大掃除を実施。お客様に気持ちよく買い物をしていただく環境が整ったと自負しています。